最高学部（大学部）

2025 年度ネパールワークキャンプ

神　明久

2025 年度のネパールワークキャンプは、2025 年 7 月 25 日（金）～8 月 5 日（火）まで、高等部生 3 名、最高学部生 4 名、引率教員 2 名で実施された。これまで 30 年にわたり行ってきた活動とは形を変え、アジア協会が現地で行っている活動に参加した。公益社団法人アジア協会アジア友の会（JAFS　以後アジア協会と表記）の活動に参加したことで、カトマンズのナショナルカレッジの学生と共に村での活動を行うことができたことは、参加生徒・学生にとって極めて有意義であり、活動の新たな特色となった。

実施期間 2025 年 7 月 25 日（金）～8 月 5 日（火）
活動場所 ネパール シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村
参加者 9 名（高等部生 3 名 学部生 4 名 引率教員 2 名）

1）実施体制

アジア協会の協力のもと、現地の National College の学生と連携し、地域の産業支援や土砂災害防止対策ならびに防災に関する現地の子供達へのレクチャーなどを実施した。

2）ワークの目的

これまで 30 年以上続けてきたネパールでの活動地域や内容を変更し、新たな形での活動の初年度となった。現地大学生との協働を通じて、ネパールの地域社会が抱える課題について理解を深めるとともに、活動地域の生活や教育、文化、経済状況の現状と課題を理解する。 具体的には、第一にネパールにおける生活や環境、社会の構造、地域を支える産業について活動を通して理解を深める。また、自然災害に対する地域住民の考え方についても知り、日本との違いを認識する。第二に、現地大学生と協働して活動することにより、異なる背景を持つ人達と協力して課題に取り組む楽しさや難しさを体験し、今後の国際的な交流や協力について、自分がどのような役割を担えるかを考える機会とするなどが挙げられる。

3）活動概要

①現地学生と協力して、地域の産業支援としてコーヒーの植え付けを行った。また、土砂災害防止策として、地域の村人及びナショナルカレッジの学生と共に 150 本ほど苗木を斜面に植え付けた。 ②活動地域の小中高校を訪問し、日本の防災についてのレクチャーと日本の文化を紹介した。具体的には、折り紙やだるまさんが転んだなどの日本の遊びを一緒に行った。加えて、村人の住宅を何軒か訪問し、日常生活について様々な聞き取り調査を行った。 ③カトマンズにて、歴史的建造物の見学やナショナルカレッジの学生宅に 1 DAY HOMESTAY を実施した。

4）事前・事後プログラム

事前学習は 6･7 月に4回、内容はネパールの基本情報（宗教や自然、経済、文化）などを学んだ。

帰国後のプログラムは、4回実施し、内容は活動のまとめ、次年度募集の資料作りなどを行った。

また、ネパールで共に活動した現地大学生を含む生徒・学生さんとアジア協会の熱田典子さんの計 8 名が来日し、日本での見学先の一つとして自由学園に 10 月 14 日に来校した。自由学園内の案内をワークキャンプに参加した生徒・学生が行ったほか、昼食を最高学部で共にし、さらに交流を深めたことは、特筆すべきことだった。

5）今回の成果と今後の課題

今回、カトマンズのナショナルカレッジの学生と共に村での活動を行うことができた。今まで続けてきた活動は日本人主体であり、もちろん地元の学校や村人と活動を共にすることはできたが、今回のように同じ立場でネパールの大学生と活動を行ったことは今までなかった。ナショナルカレッジとも契約を交わし、ナショナルカレッジ側でこちらの日本人に合わせてバディーを設定してくれたことは、参加し

た学生、生徒にとってとても有意義だった。実際、彼らと過ごす中で、宗教上食べられないものがあることを、聞いた話ではなく仲よくなった友人から見て学び、カースト制度についての現在の若者の考えも直接聞くことができた。また、現地での活動は長い間関係性を作ってきたアジア協会のプログラムであるため、村や学校の受け入れ態勢も特に問題なくスムーズだった。特に、防災について村人の認識を深める活動は、日本との比較から現在自分たちが行っていることへの振り返りにもなった。

一方、アジア協会のプログラムへの参加であるため、中心となってくださった熱田典子さんに多くの部分を頼っており、今後熱田さんの協力が得られないことになった場合は、活動の継続は難しい。特に、ネパールの学生と共に活動するうえで、熱田さんが間に立ち、アジア協会現地スタッフ（ネパール人）と協力していろいろなことをすり合わせてくださったことは、今回の成功の大きな要因だった。数年先、自由学園としても何か力が出せるようになることが望ましい。また、引率に関しては、今回教員男女１名ずつだったが、人数に関係なく女子学生がいる場合は、女性教員の参加は必須であると考えられる。例えば、自費参加の保護者などが考えられるが検討の必要がある。さらに、学生のネパール人、日本人間の男女の交流の問題についても一考の必要がある。他の海外活動などを参考に、あまりにも親しくなりすぎない工夫が今後必要だと思われる。

最後に、この活動を通して、アジア協会や熱田さんが行っている活動への理解が深まり、将来こういった活動を目指す学生が生まれることが望まれる。そのためには、帰国した 9 月からの事後プログラム、次年度の事前プログラムについて考え実行していかなければならない。また、学部が現在進めている共生共創プログラムの海外バージョンとして発展することが望まれる。

参考文献

ネパールワークキャンプ 2025　中間報告(1)
https://www.jiyu.ac.jp/college/blog/sl/72206
ネパールからのお客様をむかえる
https://www.jiyu.ac.jp/college/blog/sl/72786

表 1　2025 年度　ネパールワークキャンプ日程

	スケジュール
7月25日	カトマンズへ移動及び到着
7月26日	JAFS事務所訪問
	カトマンズにてのホームステイ先の同世代メンバーと合流
	テーマ別の活動についてオリエンテーション
	午後　カトマンズ観光
7月27日	カトマンズにて事前活動
7月28日	朝：活動地へ移動（ボテシバ村）
7月29日	現地活動
	午前：植林
	午後：
	①現地学校での交流
	②テーマ別調査（学校教育・子ども達の栄養・村の暮らし）
	③学校での防災訓練
	（自由学園においての防災対応、生徒で実施している内容等の紹介等）
7月30日	7月29日と同様
7月31日	7月29日と同様
8月1日	カトマンズへ移動、道中　以前の事業地訪問
8月2日	午前中　自由時間　午後からホームステイへ
8月3日	ホームステイ先から集合＋活動発表会　お別れパーティー
8月4日	早朝寺院の見学　KTM出発→KUL経由
8月4日	成田着